

欠席委員からのご意見

<小林 潔司委員>

1. インフラの国際標準化においては、中国が幹事国となり一帯一路政策の柱となる港湾分野、都市分野における国際標準のスーパーストラクチャ標準を策定している。高速道路など他のインフラ標準化が水面下で動いている可能性もある。ISOが発行してから対応するのでは遅すぎるので、それに先立って、例えばPIARC（世界道路協会）など国際組織で情報網を築き、早期対応を行う必要がある。
2. 鉄道分野におけるRAMS標準への対応の遅れなどを教訓に、安全性の性能保証等、プロセス標準に対する取り組みが不可欠である。参考資料に示すようにRAMSは品質マネジメントに関わる国際標準ISO9000と維持補修管理のためのISO55000が一体化された構造を持っている。
3. 個々のシステムに対しては合理的である様々な社会的規制が、systemsを総合化したSystem of systemsにおいては規制の束がイノベーションの妨げになるという合成の誤謬が発生している。特別法などの措置により、合成の誤謬の解消を目指すべきである。
4. 公共調達の分野においては、産官学による連携強化が公正取引の概念と矛盾をきたすことが発生する。産官学連携を推進する協調領域と個社が互いに切磋琢磨しうる競合領域を峻別する政策原理が必要である。

以上